

ゆい 結な がれやま

私らしく
あなたらしく



イラスト 三條 栄子

特集：みんなの防災

震災後強く意識するようになったこと

- 1位 家族や親せきとのつながりを大切に思う
- 2位 地域でのつながりを大切に思う
- 3位 社会全体として助け合うことが重要だと思う

社会意識に関する世論調査 内閣府 25年2月



地域みんなで防災力を高めよう

「私たちにできることってなんだろう？」

東日本大震災は、私たちの防災に対する意識を大きく変えました。流山市では大きな被害こそ受けませんでしたが、家族と連絡が取れなかったり、仕事先から帰れないなど、多くの人が不安な日々を過ごしました。被災した地域では、助け合い支え合って避難所生活を送っていましたが、長期にわたると様々な課題も見えてきました。そこから私たちが学んだのは、防災計画を作る時点で、男女共同参画の視点が必要だということ。『結』では、「私たちにできることは私たちの手で」と自ら防災活動に取り組む方々を紹介します。



自治会館にお菓子を持ち寄り楽しいお茶会

図上訓練で避難の方法をイメージ

防災リーダー 岡部英雄さん

平和台 2・3 丁目自治会で図上訓練を実施

岡部さんは、防災活動に取り組んで18年。災害救援ボランティア上級セーフティリーダー、自治会の防災リーダー、さらには流山市防災会議委員という肩書もお持ちです。

平成 25 年 9 月には、岡部さんが中心となって、ご自身が所属する平和台 2・3 丁目自治会において DIG※を実施しました。DIG とは、参加者が地図を囲み、危険が予想される地帯または事態を書き込んでいく「図上訓練」のことです。主要道路や病院等の施設に色を塗り、要援護者がいる世帯にシールを貼って地図を完成させ、防災や避難の方法をイメージします。DIGを行うと、今まで見えていなかった災害リスクが明確化し、対策も具体化すると

大原則。防災知識を深め、普段から災害について関心を持つこと、事前の備えも必要です」

しかし、いわゆる災害弱者(要援護者や対策をしたくとも何をしてもよくわからない人)と言われる人々がいます。岡部さんは「この方たちを地域で見守り、助け合うことが重要です。さらに、災害弱者の視点で考えた対策を立て、いざという時に対応できる環境を作っておくことです。そのためには、日頃から顔の見えるおつきあいが大切ですよ」と呼びかけています。

「まず自分の身は自分で守ることが

※DIG…災害=Disaster、想像力=Imagination、ゲーム=Game)



専門家からひとこと



浅野幸子さん

東日本大震災女性支援ネットワーク運営委員

2012年7月、流山市で行われた自治体学会関東フォーラム「復興と防災とはどうあるべきか」で、パネリストを務められた浅野幸子さんにコメントをいただきました。

災害を生き延びるには、普段から女性/男性/子育て世代/高齢者/障がい者/少年・少女など、地域に住む多様な人が対等に意見を出し合い、気持ちよく協力し合える関係づくりをしておくことが重要です。また、いつもと違う交流機会を作ることなども、地域の防災力 up にもつながります。

流山子育てプロジェクト 代表 青木八重子さん

「私にもできる 防災・減災ノート」が完成!

流山子育てプロジェクトは、子育て中の母親 13 名のグループ。これまでに「子連れお出かけ MAP」や、男性向けの育児冊子「男の子育て in 流山」などを発刊しました。

結成 5 年目を迎えた平成 25 年は、子育て家庭の防災に着目した「わたしにもできる防災・減災ノート in 流山」の作成に取り組みしました。

この冊子は、乳幼児のいる家庭での災害時に生じる様々な『困ったこと』を想定し、家族で話し合い書き込みながら問題点を整理するノートです。

「乳幼児を連れての編集会議は、子どもが泣いたり走り回ったり、幼稚園のお迎えがあったりと、腰をすえた活動ができず大変でしたが、できる人

ができることから、と頑張りました」と青木さん。「この活動を通して母親たちは『子育てをしながら共に学び考え議論する仲間』になりました」

流山子育てプロジェクトの次の活動目標は、防災キャラバン隊の結成。「この冊子を活用して、家族で参加できるワークショップを各所で実施し、防災・減災の啓発に努めていきたいです」



野々下 4 丁目四季野自治会

自助・共助で災害初期を乗り切る

自治会創立 40 年に当たる平成 25 年を「防災元年」とし、活発に活動を始めた四季野自治会(会長 中村健二さん)。6 月に防災対策委員会を立ち上げ、まず 8 月に全世帯に対しアンケートを行い、防災に対する意識を調査しました。その結果、ほとんどの世帯が防災に関心を持ち、どの家庭でもある程度災害への備えをしているということがわかりました。また、「自治会として備えが必要である」という声

が多くあり、自治会に対する期待度の高さを感じることもありました。

では何から始めるのか。「それは拠点づくりからでしょう!」と言うのは、防災対策検討委員の小清水隆一さん。「災害発生から行政の支援が及ぶまでの数日間、助け合いながら命を守らなければなりません。そのために、防災倉庫の必要性を感じています」

自治会長の中村さんは「東日本大震災から 3 年。自治会員の防災意識はますます高まっています。市の防災危機管理課にアドバイスをいただき、現在計画を策定中です。また、私たちの自治会には、四季野祭りや高齢者が親睦を図る『喜楽会』があります。大事なものは“人と人とのつながり”。これがいざというとき、力を発揮します」と日々の交流が大切だと力説しました。

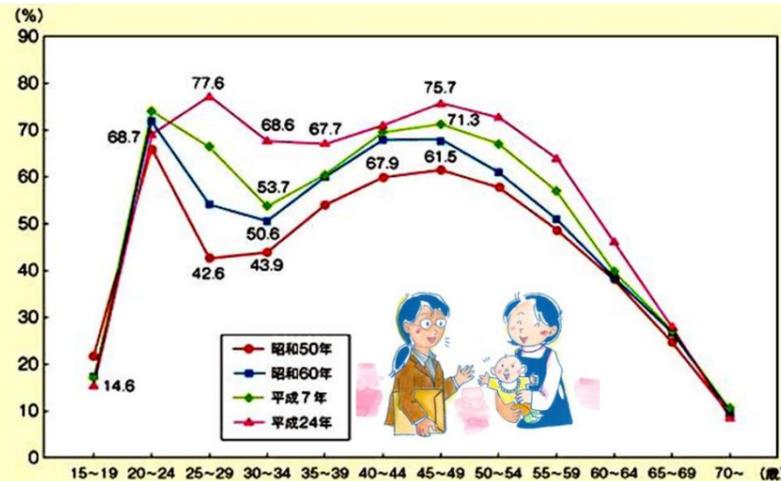
日頃のおつきあいが大切



クラフでみる 男女共同参画

就業の分野における男女共同参画

M字カーブ ～女性の年齢階級別労働力率の推移～



女性の労働率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、M字カーブを描くことが知られています。昭和50年からの変化を見ると、カーブは浅くなっていますが、M字の底となる年齢階級も上昇しているのが見てとれます。しかし、いわゆる子育て世代に当たる25～44歳の女性は、仕事と家事・育児の両立が困難であることを理由に求職活動を行っていない者の割合が高く(平成22年労働力調査結果)、こうした女性の就業希望を実現するためには、仕事と家事・育児を両立できる環境の整備が必要です。(内閣府平成25年版男女共同参画白書より)

e コミ流山をご存じですか?

地域情報の共有にとっても便利!

「e コミ流山」とは、地域活動や地域の皆さんの防災活動を支援するインターネットサイト。ハザードマップや防災関連施設の配置などが地図データでご覧になれます。このサイトでは、地域の皆さんそれぞれの専用ページを作成することができ、ブログの作成や行事予定の管理のほか、皆さんのとおきのスポットや地域の危険箇所を反映させた、独自のマップを作成することもできます。地域情報の共有にとっても便利です。ぜひ、「e コミ流山」をご利用ください。
http://ecom-plat.jp/nagareyama/
問い合わせ先: 防災危機管理課 04-7150-6312



編集後記

(五十音順)

- ◆青山路子 「私らしく生きる」とは、我慢ではなく責任が伴います。自分の行動や発言に責任を持つには、学ばなければいけないことが山積です。経験も必要です。先は長いです。
- ◆柏木恵理 学生さん・子育て世代・地域の方々の意識が、男女共同参画に向けて下さると嬉しいですね。
- ◆三條栄子 カットひとつひとつに思いを込めました。
- ◆渋谷和子 「防災」というと男の仕事と思う人が多い。事実自治会での話し合いや対策は男中心。性差を尊重し、協力しあえば、命を守ることに有効なやり方が生み出されるのに…まだこれからのことなのでしょう。
- ◆西本絵梨子 今回もまた、難しいテーマでしたが、気付けられる事の多いテーマでもありました。取材先の皆さんの様に、自分の出来る事から行動しようと思えます。

結とは…
昔、農村の人々は手を貸しあうことを「結」と呼びました。
また、友達や友愛を意味する言葉でもあります。地域の絆が見直されている今、「結」を大事にしていきたいですね。

流山市役所 総合政策部 企画政策課 男女共同参画室
〒270-0192 流山市平和台 1-1-1
TEL:04-7150-6064 FAX:04-7150-0111
Email: danjokyoudou@city.nagareyama.chiba.jp



高校生
男女共同参画意識って
どうなの?
流山南高校に
行ってきました!

結編集(以下結) 「男は仕事」「女は家庭」という言葉があるけど、どう思う? 大出 私は、必ずしも昔どおりでなくてもいいかなと思う反面、やっぱり男性が働いて女性が家事をするというのがなんとなく理想なのかなと思います。坂本 そう? 『主夫(しゅふ)』という言葉もあるけど、私は、お互いがちゃんと仕事もやって家庭を守ってれば、性別にこだわらなくていいと思う。鈴木 私は、家事ばかりやりたくないし、自分のやりたいこともやって仕事も出来る、そんな環境がいいので、女性が家庭に入るというのは反対だな。

流山 僕は小さい頃から両親が共働きで、そういう環境に慣れているせいか、男とか女とか関係なくどちらか働くのが普通だと思ってる。増田 私は、女性が育児をしながらでも仕事ができるのがいいな。菅原 今の時代、男だけが働いて家族を養うことは難しいと思う。男女平等だし、話し合っただけでいいのかなと思います。結 じゃ、「男は仕事」「女は家庭」とか「女だからこつにならなく」とか、性別によって役割を固定する考え方はどう思う? 大出 私は片付けについて、男子から、おまえ女なんだからもっとときれいにしろよ、って言われる。坂本 言われたことはいくらでも女のくせになんて言われたら、きつと力チンとくるだろうな。



インタビューに応じてくれた流山南高校の生徒会の皆さん

- 左から
瀧山さん (2年・書記)
坂本さん (2年・副会長)
大出さん(中央) (2年・会長)
増田さん(中央) (2年・会計)
鈴木さん (2年・副会長)
菅原さん (1年・議長)

流山 僕は、日常生活で男女というワードは意識してないけど、そうやって言葉で分けちゃうというのはよくないと思う。生徒会でも、僕たちは普段は性別に関係なく作業したり話し合ったりしています。増田 私も男性はこれ、女性はこれ、と決まっているのは嫌です。菅原 自分がやりたいことをやっていると聞かれると、男のくせにやる気がしんどい、男のくせに夢や目標だったとしたら、投げ捨てたりする人がいると思うと、僕も嫌です。坂本 私たちの高校は三代連続で女子が生徒会長なのですが、私は大出さんが生徒会長になったら、バックについて必ず助けるからと言った身でもあり、男だから女だからということはない、ぜんぜん意識していません。

流山南高校 設立/昭和58年4月
所在地/流山市流山9-8001
1年生数/794
1年生男子数/403名
1年生女子数/391名
創立30周年を迎えた同校は、生徒が自主的に活動する運動部や学校風情の向上に積極的に取り組んでいる。創設以来の伝統を継承し、地域社会への貢献に努めている。

今時の高校生って、男だから女だからということは意識していないんですね。お互いを認め合い、自分の考えをしっかり持っている姿を頼もしく思いました。

流山で「がんばるひと」見つけた!
防火・救命活動に取り組む
女性消防団員にインタビュー

流山市に『消防団女性部』があるのをご存知ですか? 女性の視点を活かした地域の防火・救命活動に取り組むため、平成7年に発足し、現在は10名の団員で活動しています。流山市消防本部を訪れ、部長の山本素美代さん、ご夫婦で消防団員という廣木美恵さん、発足当初からのメンバー加藤恵子さんにお話をうかがいました。

■活動内容を教えてください。

山本さん 毎年、火事が多くなる冬場の11月から2月まで、月1回の割合で一人暮らしの高齢者宅を訪問し、防火診断を行なっています。家やストーブの周辺に燃えやすいものを置いていないか、住宅用火災警報器は備わっているか、などをチェックし注意を呼びかけています。そのほかにも、普通救命講習での指導、消防操法大会や出初式での受付などが主な任務です。最近は、企業や自治会から救命講習の依頼が増えています。



山本素美代さん

■これからの目標、実施したい活動はありますか?

山本さん もっと団員を増やしたいです! 小学校や幼稚園を訪問して、防火・防災の重要性を伝えていきたいです。
廣木さん たくさんの人に救命講習に参加して欲しいです。救急車来るまでの時間がいかに大切かを伝えることが、私たちの任務だと思っています。
加藤さん 25年度は東部中学校で救命講習を実施しましたが、他の中学校へも呼びかけたいですね。



廣木美恵さん

制服姿
かっこいいです!
左から
加藤さん
河野さん
山本さん
廣木さん
安藤さん
流山市消防マスコット
おおたかくん

■ご自身にとって、女性消防団とはどのような存在ですか?

廣木さん 団員は皆さん仕事や家庭を持っていますから、できることを分担してやっています。無理せずに長く続けられる活動でありたいと思います。
加藤さん 何かに参加するということは、ポリシーをしっかり持つことが大切であり、頑張っていれば周囲は応援してくれるようになります。女性消防団と出会って、自分にできることを発見できたと感じています。
山本さん 地域の役に立ちたいという思いはあっても、何をしたらいいかわからない方にとっては、良いきっかけになると思います。私も活動を通じて「貢献している」と実感する一人です。私たちの活動をぜひ見に来てください。



加藤恵子さん

女性消防団員募集中!

だれもが参加でき、地域に貢献できるやりがいのある業務です。興味のある方はお電話ください。
《問合せ先》流山市消防本部消防総務課 04-7158-0299